



浙江工商大学

Zhejiang Gongshang University

●学部・大学院生 26,690人 ●教職員 2,100人 ●留学生 約600人

ホームページ <http://www.zjgsu.edu.cn>

交流協定締結年月日：2012年5月7日 主管学部：農学部



浙江工商大学正門



日本語学科学生との交流



上海郊外で集合写真



市の中心にある西湖

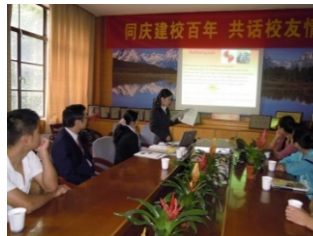
国際交流の特色

大学はその前身である杭州中等商業堂として1911年に創立されて以来、管理学、経済学、工学、文学、法学、理学等の9学部をもつ大学に発展している。学部間交流協定を締結時には杭州商学院と呼ばれ、その名称に地域産業、経済との関わりの深さを見ることができる。2004年5月に浙江工商大学となり、同大学の食品、生物工程学院(学部に相当)も産業を支える基礎学部として位置づけられている。現在、食品と生物工程研究所をはじめ50の研究所在設置され、地域産業、研究の活性化に貢献している。学生らは杭州市郊外の経済技術開発区にある、約70万平方メートルの新キャンパスで勉強している。国内トップ100に入る大学に急成長している。

交流実績（平成27年度～29年度）

年度	農学部			地域マネジメント研究科		
	H27	H28	H29	H27	H28	H29
受入・派遣						
学生の受入	5	5	4	0	0	0
学生の派遣	4	6	7	0	0	0
教員の受入	6	1	1	1	0	0
教員の派遣	2	1	1	0	0	0

農学部



両大学院生による研究発表会風景
(食品及び生物工程学院にて)

地域マネジメント研究科



工商管理大学院・郝云宏院長の公開講義
(香川大学幸町南キャンパス特別講義室)

農学部教員からの声

杭州は2200年の歴史があり、呉越国や南宋王朝の時代の首都である。また13世紀の旅行家マルコポーロが「世界で最も美しく華やかな都市」と誉め讃えているように、西湖を中心に人口380万人余りが住む、美しい文化都市が形成されている。

2014年、新キャンパスにすべての学部が旧キャンパスから移動した。市内各地域に地下鉄が延びており、インフラは完成に近づいている。新キャンパスは14大学、総勢20万人からなる大学街を形成している。

杭州市周辺は、龍井茶の産地で、中国茶葉博物館がある。また、紹興酒の故郷、紹興市も近く、漢方薬生産の歴史の分かる、胡慶餘堂中薬博物館を市内に残す。中国では機能性食品の研究開発が盛んで、医食同源の研究テーマの観点からも杭州は興味深い地域である。

2010年から研究室の研究環境も急速に近代化が進んだ。高額な最先端の機器が各研究分野毎に揃ってきた。食品科学分野を中心に、学生の相互交流が盛んになり、共同研究成果が学術論文に反映されてきた。米国、日本などから教員を招聘し、国際化を目指す教育交流事業が盛んになっている。

農学部教授 田村 啓敏

地域マネジメント研究科教員からの声

地域マネジメント研究科では、平成24年度に、香川大学国際交流資金事業「外国人研究者招へい援助事業」により、浙江工商大学工商管理大学院・郝云宏院長をお招きし、公開講義「社員の採用、配置及び定着を図るために～中国企業からの経験～」を孫家勝副教授の同時通訳により開催した。公開講義には、地域マネジメント研究科の学生・修士生・教職員が多数参加し、中国ビジネスや雇用の最新情報について学ぶと共に、意見交換などを通じて交流を深めた。

また、孫家勝副教授には、平成25年度には、香川大学において「知識経営成功へのカギ」の講義をしていただいた。

平成26年度には、香川大学大学院地域マネジメント研究科の講義「地域ICTマネジメント」において、中国・浙江工商大学より遠隔講義「ドラッグストアチェーンにおける知識経営」を実施していただいた。今後も、遠隔講義システムなどを有効に活用し、益々交流を深めていきたいと考えている。

元地域マネジメント研究科 教授 板倉宏昭